



# ビワ果実腐敗を防ぐ総合的防除マニュアルの作成について

長崎県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門 小 みね 正 敬

## はじめに

長崎県におけるビワ栽培の歴史は古く、全国一の生産量を誇る特産品であるが、近年、露地栽培のビワにおいて果実腐敗が多発し問題となっている。本県では果実腐敗には数種の菌が関与しており、最も多いのが灰斑病菌(図-1)、次いで炭疽病菌(図-2)である。これらの病原菌による腐敗は果実内部から進行するため、収穫時は外見上健全な果実が、市場出荷後に腐敗する。果実腐敗の発生は産地の信頼を失うことにつながることから、深刻な問題である。このため、本県ではこれまで化学的防除を主体とした防除対策の確立に取り組んでおり、一定の成果が得られた。さらに、温暖化の影響による果実腐敗の発生増加への懸念などから、耕種的防除を機軸とした防除についても研究を進めてきた。今回、紹介するビワ果実腐敗防止マニュアルは、これまでの成果を総合的な防除対策としてまとめたものである。本稿では、近年に成果が得られた項目を主としたマニュアルの内容や現地

でのマニュアルへの取り組みの方向性について紹介する。なお、本マニュアルは長崎県農林技術開発センターのホームページから入手できるので、活用いただければ幸いである。

## I ビワ果実腐敗防止マニュアルの内容

### 1 マニュアルの考え方

本マニュアルは図-3に示すように果実腐敗の問題点、主な病原菌や伝染経路、発生しやすい条件、防除対策(化学農薬による防除、耕種的防除)および腐敗防止のためのチェックシートで構成した。果実腐敗の主な原因菌は、開花期に感染し幼果内部に潜伏後、収穫期以降に腐敗を発生させる(野澤ら, 2022; 高田ら, 2022)。これらの生態的知見をもとに、現地では開花期を主体に果実腐敗の防除を行っているが、腐敗果の発生を十分に抑制できていないため、本マニュアルでは病原菌の生態を踏まえた防除技術の採用や病気の出にくい栽培環境づくりを含めた総合防除を目指している。一例を挙げると、ビ



図-1 灰斑病菌による果実腐敗



図-2 炭疽病菌による果実腐敗



図-3 ビワ果実腐敗防止マニュアルの表紙と目次

目次	
○果実腐敗の問題点	(2) レインガンによる防除
○主な病原菌や伝染経路	(3) 袋かけ直前の果房スポット散布
○発生しやすい条件	II 耕種的な防除
○防除対策	1. 屋根かけ栽培
I 化学農薬による防除	2. 適正施肥
1. 開花期防除の重要性	3. 樹型の改造
2. 開花期の防除回数	4. 落葉、腐敗果実を園外に持ち出し処分
3. 開花期防除の開始時期	5. 感染のリスクを減らす
4. 防除薬剤	6. 適期の収穫
5. 急傾斜地で動力噴霧器の導入が困難な場合の防除	○腐敗防止のためのチェックシート
(1) ドローンによる防除	

Constructing of Integrated Control Manual to Protect Fruit Rot of Loquat. By Masayuki KOMINE

(キーワード: ビワ, 果実腐敗, 総合防除, マニュアル)